

地域のお宝を紹介しあい交流を深めよう - WEB サイト，電子メール（テキスト，HTML）の活用を通して -

小学校・全学年・総合的な学習・生活科・国語科
宮城県白石市立福岡小学校長峰分校
渡部 敬 (nabetaka@human.gr.jp)

<http://www.area.city.shiroishi.miyagi.jp/naga-ps/>

キーワード 小学校，総合的な学習，地域，インターネット，電子メール，テレビ電話，学校間交流

1. はじめに

福岡小学校は全校児童346名の中規模校であり，長峰，不忘，八宮の三分校をかかえている学校である。長峰分校は全校児童9名，完全複式学級3学級のへき地指定2級の学校である。

分校の児童は，主に運動会や社会見学，卒業式などの学校行事等を通して本校や他の分校の児童と交流を図っている。しかしながら，決して十分とは言えず，本校や他の分校児童の意見を聞く機会には恵まれない。そのため，せっかく本校と分校の児童と一緒に活動する機会があっても，分校の児童は引込み思案で控え目である。本校の児童と交流することに抵抗を示す児童も見られる。

一昨年の8月末に，コンピュータが導入され，今年度からインターネットにも接続し，ネットワーク化が図られた。へき地の分校にあつて，高度情報通信ネットワークはこれまで以上に交流を深めてくれるものであり，大きな可能性を秘めている。

そこで，地域のお宝（社会的，自然的，人的なもの）を中心に据えて，これらのネットワークを大いに活用し，交流学習を豊かなものにしていきたいと考えて実践してきた。

2. 実践の概要（長峰分校での実践を中心に述べる）

(1) インターネットとメールの授業

今年度の4月当初からインターネット接続となったので，1学期からインターネットを活用しながら授業を進めてきたが，電子メールを活用しては来なかった。

そこで，本企画を本格実施するにあたり，9月に数回にわたり，高学年学級でインターネットと電子メールの仕組み等に関する授業を行った。電子メールは電話や郵便とどのように違うかを考えさせた後，実際に教室のコンピュータから電子メールを送り（写真1），職員室のコンピュータで受信してみせた。（写真2）



写真1 教室から送信



写真2 職員室で受信

その後，実際のメールの書き方や送信の仕方，受信の仕方を取り上げていった。

(2) メールでの交流

電子メールでの交流は9月下旬から3学級で実施されている。低学年学級は不忘分校と，中学年学級は八宮分校と，高学年は本校とそれぞれ行っている。

低学年では，はじめに各児童がメールの下書きをし，それを見ながら担任がメールを打ってきたが，クリックパレット（ATOKスマイル版）を用いて，各児童が時間をかけながらも打てるようになった。（写真3）そのメールの内容は，生活科での木の実拾いや基地作り，秋の遠足の様子などで，その時の感想やクイズにしたものを書き，その時の様子が分かるように3，4枚の画像を添付して送った。お互いのメールを見て，質問をしたり，クイズに答えたりしながら，やりとりを楽しんできた。メール本文と画像は印刷し，教室掲示にも活用してきた。



写真3 メールを書く2年生

中学年の児童もはじめに下書きをし，その後，クリックパレットから入力したり（3年児童），キーボードから入力したり（4年児童）した。メール本文が長くなるときは，前半を各自が，後半を担当が入力するようにしてきた。そのメールの内容は，国語の時間に書いた作品の交流や質問，総合的な学習の時間に取り上げた名人探しや作物の収穫の様子の紹介などが中心であった。低学年同様，その時の様子が分かるように，数枚の画像を添付し，教室にも掲示しておいた。中学年の実践では，感想文や意見文をFAXで送り，それを見ながらメールで感想や質問を書いたりする交流学習も実践でき



写真4 FAXで送信

E スクエア・プロジェクト成果発表会

た。(写真4)

中学年児童は各学年とも女子1名である。そのため、日常的に同じ学年の仲間と共に学習することはこれまで経験してこなかった。今回の交流学習を通して、他の分校の同学年の児童の作品や考えにふれ、自分自身の作品を振り返るきっかけとなった。

高学年でのメールの交流については、(4)で述べる。

(3) ホームページ作成

9月後半から、本校の5年2組でも、また長峰分校の高学年学級でも地域のお宝のページを作成し始めた。

本校では、グループを作って校内でお宝を探し、デジタルカメラで撮影していった。集めたものを一太郎スマイルを用いホームページ化していった。分校では、木の実を中心にお宝探しをし、本校同様、デジタルカメラで撮影し、ホームページビルダーを使って、ホームページ化していった。分校ではこれまでも木の実関係の画像を撮りためていたため、取舍選択していった。

児童にとって、ホームページを作ることは初めてのことであったが、作り方がわかると、放課後の時間なども活用して、進んで作成していた。

(4) ホームページとメールでの交流

ホームページの作成と並行して、メールの交換も行った。

本校では、20台のパソコンのうち、インターネット接続のできるものが5台しかないため、一太郎スマイルの便せんを使ってメール(手紙)を書いた。データが大きくなるため、コンパクトフラッシュに入れ、文書当番の分校職員を通して受け渡しをした。

分校に届いたデータは印刷され、紙媒体の形で児童に配布された。それを読みながら、分校の児童は返信を書いた。分校児童は、Outlook Express を使ってメールを書き、3人まとめて送信した。

メールの内容は、それぞれの教室や学校で流行しているグッズや遊び、担任についての質問やその返信であったが、お宝関係のページができあがるにつれ、そのページについての感想や質問へと変化していった。

分校では、高学年担任が連絡し、他の学校の親しい先生方やその受け持ちの児童にも見てもらった。北海道から宮崎県まで、各地から届くホームページに関するメールを読んで、児童も担任も喜んでいった。

この間の交換しあったメールは、個人情報はずした形で一部公開している。一太郎スマイルで作成されたものは pdf ファイルに変換して公開している。

(5) インターネットTV電話での交流

分校には TV 会議システムがあるものの、本校にはない。そこで、インターネット TV 電話を活用して新たな交流に挑戦した。KDDI 研究所から出されているもので、USB 接続の CCD 動画カメラとヘッドフォン付きマイク、ソフトで1万円弱で手に入るものである。

何度かの接続実験を試み、昨年10月23日に本校・分校間で音声、動画ともに開通した。

早速、5年2組と高学年学級での交流をと考え、10月31日に接続し、児童を登場させたところ、本校児童の勢いに圧倒され、分校児童が萎縮してしまった。本校児童にどう対応したらよいのか迷ったのである。

段階的な経験が必要と判断し、11月10日、もと分校職員であり低学年の時の担任だった教員と受け持ちの6年女子1名とのTV電話を行った。

放課後の時間を利用しての接続だったので、分校児童全員と職員もコンピュータのまわりに集まり、本校とのやりとりを楽しんだ。高学年の児童3名は、低学年の時の担任ということもあり、生き生きとした態度で交流を楽しんだ。

12月6日に、5年2組と高学年学級の交流が実現した。それぞれのお宝のページからクイズを出し、答えたり質問したりしながら、交流を楽しんだ。この時、本校は、プロジェクターからスクリーンにTV電話の画像を映し、分校はコンピュータの画面を見ながら実施した。(写真5)



写真5 本校でのTV電話の画面

3. 成果と今後の課題

・様々な形の交流を行うことで、居ながらにして同学年の児童と交流を深めることができ、特に分校の児童にとっては、自己を振り返る機会となった。他分校児童に対する仲間意識も高まった。

・ホームページ作成やメールの活用といった新たなコンピュータ・リテラシーを高めることができた。

・TV電話の活用はまだ始まったばかりである。3学期になり不忘分校にも設置した。日常の授業や生活の中で今後も活用しながら、本校や他分校との交流学習を深めていきたい。

・より深い交流のために、同じ場での共通の体験と結びつけたメール等でのやりとりも行っていきたい。